

総合計画第3次基本計画の「まちづくり指標」の進捗状況（令和2年度実績）

1 趣 旨

- 総合計画第3次基本計画では、施策テーマごとに「まちづくり指標」を設定し、それぞれ5年間で達成すべき目標値を設定している。目標値は年度ごとに年次目標を設定し、その達成状況の検証及び評価を通して、計画の進捗管理を実施している。
このような評価的視点に立った進捗管理により、各分野における施策の整合性の確保や効率性の向上につなげ、総合計画に掲げるまちの将来像の実現を図る。

2 「まちづくり指標」の令和2年度実績（年次目標ベース）※（ ）令和元年度実績

分 野	指標数	達成状況（上段:指標数、下段:分布割合）					備 考
		100%以上	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	
1 地域産業	12	4(4)	0(0)	2(3)	0(1)	6(4)	80%以上 6(7)
		33%(33%)	0%(0%)	17%(25%)	0%(9%)	50%(33%)	50%(58%)
2 歴史・文化	4	0(3)	0(1)	2(0)	1(0)	1(0)	80%以上 2(4)
		0%(75%)	0%(25%)	50%(0%)	25%(0%)	25%(0%)	50%(100%)
3 交流・観光	18	7(8)	0(3)	0(5)	2(0)	8(1)	80%以上 7(16)
		41%(47%)	0%(18%)	0%(29%)	12%(0%)	47%(6%)	41%(94%)
4 子育て・教育	20	6(9)	3(6)	4(2)	1(0)	6(3)	80%以上 13(17)
		30%(45%)	15%(30%)	20%(10%)	5%(0%)	30%(15%)	65%(85%)
5 安全・安心	42	16(24)	7(10)	4(6)	5(1)	7(1)	80%以上 27(40)
		41%(58%)	18%(24%)	10%(14%)	13%(2%)	18%(2%)	69%(96%)
合 計	96※	33(48)	10(20)	12(16)	9(2)	28(9)	80%以上 55(84)
		36%(51%)	11%(21%)	13%(17%)	10%(2%)	30%(9%)	60%(89%)

※令和2年度の達成状況は未集計指標4件(3交流・観光1件、5安全・安心3件)を除き算出

3 分野別の達成状況

(1) 地域産業

- 「No.1創業件数」、「No.4企業団地への進出企業数」は、各支援機関との切れ目のない支援や、市内外の企業への誘致活動や産業団地の分譲推進等により、目標値を達成している。
- 「No.2新技術・新製品・新サービス開発件数」は、コロナ禍における事業者支援にも新たに取り組んだことにより、前年度に比べ大幅に増加し、年次目標（20件/年）を達成した。また、「No.3伝統産業の生産額」は、年次目標は達成しなかったが、オンラインなどの販売方法への取り組みの支援体制を整備した。

(2) 歴史・文化

- 「No.16高岡市万葉歴史館の入館者数」は、前年度は改元効果から年次目標を大幅に上回っていたが、令和2年度は、コロナ禍における休館や外出の自粛等の影響により大幅に減少した。残りの3指標についても休館やイベント情報の減少等により、前年度より減少し、年次目標も達成しなかった。

- ・ 高岡万葉まつり「万葉集全 20 巻朗唱の会」は、例年通りの開催は困難であったが、コロナ禍におけるイベント開催として、動画での朗唱参加という形式で実施し、新たな万葉ファンの裾野の拡大につながった。

(3) 交流・観光

- ・ 多くの祭り・イベントの中止や緊急事態宣言中の休館、諸外国からの入国規制、外出を控える人の増加等により、「No.17 高岡市観光客入込数」、「No.23 外国人宿泊者数」、「No.25 中心市街地・観光地周辺における歩行者通行量」などの指標は前年度より減少し、年次目標も達成しなかった。
- ・ コロナ禍ではあったものの、「No.24 中心商店街・観光地周辺における新規開業店舗数」は、年次目標の 10 件を超える 17 件の新規開業となり、目標値も達成している。

(4) 子育て・教育

- ・ 緊急事態宣言中の休館や会場の利用制限等の影響により、「No.38 子育てに関する相談対応件数」、「No.51 生涯学習センターの利用者数」、「No.53 体育施設の利用者数」などの指標は前年度より減少し、年次目標も達成しなかった。「No.38 子育てに関する相談対応件数」に関連する妊産婦や親子健康相談については、オンライン窓口を開設し、安心して子育てできるよう支援した。
- ・ 国の GIGA スクール構想に対応して、ICT 教育環境の整備を大幅に進めた。また、ICT の活用に向けた教員研修を新たに実施するとともに、授業内容の見直しや指導等の工夫により、「No.43 教員研修評価アンケートにおける満足率」、「No.47 郷土に誇りをもつ心を育むことができた児童・生徒の割合」などは年次目標を達成した。

(5) 安全・安心

- ・ 事業の中止や会場の利用制限、受講控え等の影響により、「No.61 介護予防日常生活総合事業における住民主体の通いの場の一般介護予防事業の参加者数」、「No.75 わがまち訓練の実施地区数」、「No.78 防火防災講習会参加者数」などの指標が前年度より減少し、年次目標も達成しなかった。
- ・ 「No.65, 66 市民病院と地域医療機関等との患者の紹介率・逆紹介率」、「No.85 上水道管路の耐震化率」、「No.86 下水道普及率」などの指標は着実に増加しており、安心・安全なまちづくりは進んでいる。

4 総括

- ・ 本市が「ひと」の創生を起点とするまち・ひと・しごと創生を進めている中で、令和 2 年度は、①地域産業分野では創業支援や産業団地の分譲推進、②子育て・教育分野では認定こども園への移行や郷土教育の推進、③安全・安心分野では市民病院と地域医療機関との連携や河川、上・下水道の整備などに関連する指標が目標値を達成した。
- ・ また、緊急事態宣言や外出自粛、休業要請による人流の抑制や経済活動の停滞など、新型コロナウイルス感染拡大の影響が大きい 1 年ではあったものの、デジタル技術の活用によって、テレワークやオンライン会議など、「新しい生活様式」に対応した時間や空間に捉われないライフスタイルや働き方の選択肢が広がるとともに、より創造的な活動に注力できる環境づくりが進んだ年でもあった。

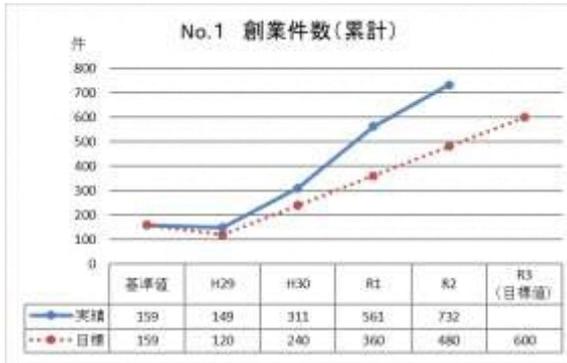
- ・ 本市においても、「新しい生活様式」への対応に取り組む事業者への支援やキャッシュレス還元事業などコロナ禍を乗り越える経済対策に取り組むとともに、高岡万葉まつりや高岡クラフト市場街といったイベントをオンラインで開催するなど、開催方法の見直しや工夫を行い、感染防止対策に努めながら事業等を展開した。
- ・ このように、各種支援の実施やオンラインへの対応等により、安全・安心を中心とした施策が着実に進んだことから、一定程度取り組みを進めることができたと考えている。今後は、今回のコロナ禍で加速したデジタルトランスフォーメーションなどの社会情勢の変化にも的確に対応し、経済回復と感染防止のバランスを勘案しながら、ポストコロナ時代に向けたまちづくりを推進していく必要がある。

5 分野別の評価

(1) 地域産業

《まちづくり指標の分析と対応》

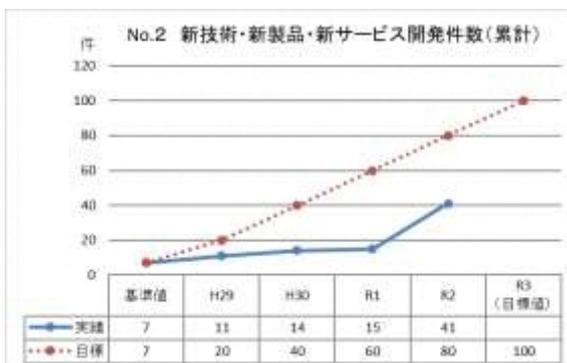
【産業】



- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和元年度の250件に比べ令和2年度は171件となり、創業件数は減少したものの、とやま呉西圏域で開催した創業セミナーや創業者支援事業補助金等を通して、創業機運の醸成を図るとともに、各支援機関との連携による切れ目のない支援により、目標値を達成している。



- 市内外の企業への誘致活動や産業団地の分譲推進、支援施策等の提案を積極的に展開し設備投資が推進されたことから、令和2年度において、市の全ての産業団地の分譲が完了した。



- 新技術・新製品開発補助金と地域資源活用事業支援補助金の支援件数11件に加え、コロナ禍における事業者支援として、令和2年度限定で実施したシフト「新しい生活様式」支援補助金の支援件数が15件と計26件増加した。累計の目標値は達成できなかったが、新しい生活様式に対応した新商品開発やECサイト構築などの環境整備に取り組む事業者への支援を通じ、コロナ禍における新しい生活様式の普及につなげることができた。

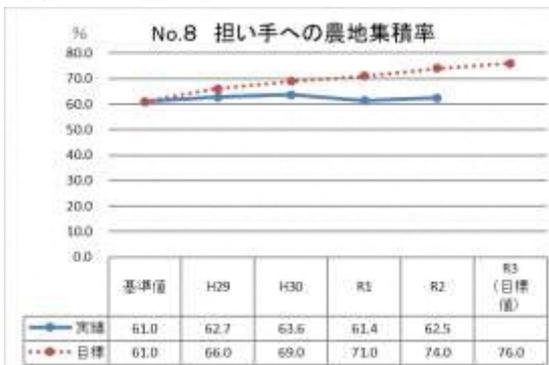


- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面販売等が低迷したことが伝統産業の生産額の減少につながった。一方で、令和2年10月に移転オープンした高岡地域地場産業センターには、写真・動画等デジタル素材の作成・活用を支援する「ST@R-ZIBA(スタジーバ)」を整備し、ポストコロナ時代に向けてオンラインなどの販売方法の多様化、多角化に向けた取り組みの支援体制を整備した。



- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年テクノドームで行っている合同就職面接会は、規模を例年の1/10程度に縮小して小規模開催で行ったため、年次目標が達成できなかった。コロナ禍により上半期は有効求人倍率が低迷したものの、下半期に入りやや改善傾向がみられた。
- 県西部6市で構成する「とやま呉西圏域」では、これまで学生や転職希望者を対象に、就職・採用を支援する「とやま呉西圏域連携就業マッチング」を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度はオンライン方式によるWEB企業説明会を開催し、参加者には呉西圏域の企業を知っていただく機会となった。

【農林水産業】



- 農地集積が進むにつれ、狭小・変形であるなど条件不利な農地が残り、集積は鈍化していることから、年次目標を達成できなかった。令和3年度から、県の「中山間地等条件不利農地集積支援事業」を活用し、条件不利農地を引き受けた担い手に、農地を改良するための支援を開始する。



- 新型コロナウイルス感染拡大の影響によるイベント等の中止・縮小もあり、年次目標を大きく下回った。引き続き、県内の感染状況や国の方針、県のイベント開催判断フローに基づき、個々の開催の可否を検討し、開催時には、イベント主催者に感染防止対策の徹底や感染発生時に感染の可能性がある者を把握する仕組み構築などのアドバイスを行う。

(2) 歴史・文化

《まちづくり指標の分析と対応》

【歴史・文化】



- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの歴史・文化施設の入込者数は前年比50%未満となったため、年次目標が達成できなかった。今後は、武田家住宅や伏木北前船資料館、伏木気象資料館の展示内容の刷新や、勝興寺の宝物展、現代工芸展の開催に加え、施設間での相互広報の強化など入館者数の回復につなげる。



- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、万葉歴史館の入館者数は大幅に減少した。令和3年9月に展示室改修を終えたところであり、万葉集の魅力発信や誘客PRのほか、万葉歴史館を拠点とする市の北部エリアの周遊促進などにより入館者数の増加を図る。
- 高岡万葉まつり「万葉集全20巻朗唱の会」については、例年通りの開催は困難であったが、コロナ禍でもイベントの開催を絶やすことなく次につなげるため、動画での朗唱参加という新しい形式で実施し、万葉ゆかりの自治体のほか、海外からの参加もあり、万葉ファンの裾野の拡大につながった。

(3) 交流・観光

《まちづくり指標の分析と対応》

【観光】

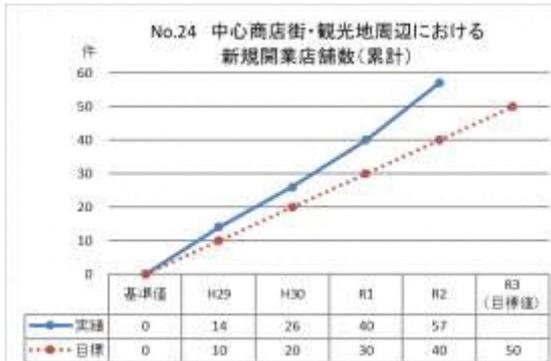


- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの祭り・イベントが中止となったことや、緊急事態宣言中に休館の措置をとった観光施設があったことが影響し、観光客入込数は減少した。緊急事態宣言後は、新しい旅のエチケットや旅行者へのマナー啓発を行うなど感染防止対策を行うとともに、宿泊割引などの県民を中心とした消費を促す施策の展開に努めた。



- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、諸外国からの入国が規制されたことから、外国人宿泊者数は大幅に減少したが、インバウンド回復を見据え、国等と連携し、ものづくりをテーマとした新たな誘客コンテンツの造成を行った。また、これまで築いてきた台湾との関係を途絶えさせないためにも、広域協議会等と連携し、地域の魅力を動画やSNS等で発信していく。

【交流】



- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、外出を控える人が増加したため、中心市街地・観光地周辺の歩行者通行量は年次目標を大きく下回った。また、まちなか居住推進総合対策事業への申請件数は前年度と変わらなかったものの、単身世帯の申請が増加したことにより、前年度に比べ減少した。一方、新規開業店舗数は年次目標を超える17件となり、中心商店街、観光地周辺の賑わいに効果をもたらしている。引き続き、リノベーションまちづくり事業の進展や特徴のある店舗等に対する開業支援、セリオタウン構想などに取り組み魅力あるまちづくりを目指す。さらには、まちなか居住やオフィスの誘導、マイクロツーリズムにも注力していく。



- ふるさと納税については、前年度に比べ寄附件数、寄附金額ともに2倍を超えた。伝統工芸品や自然に恵まれた食材、体験など返礼品の拡充や、本市の魅力を発信することで、寄附を通して高岡に関心を持ち、応援していただける関係人口の増加にもつながった。



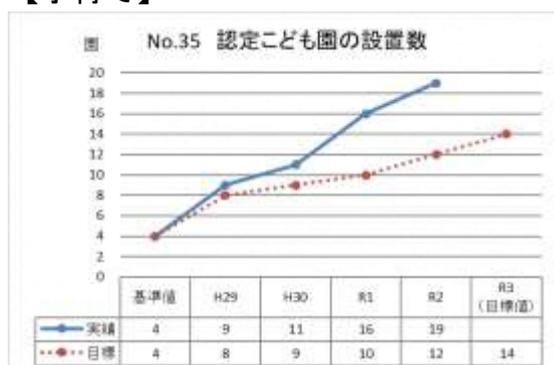


- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、県外との往来自粛や学校の休校等によって、乗車人数が減少した。今後、ポストコロナ社会において、公共交通を維持していくために沿線地域との連携をはじめ、地域交通を地域の方々と共に考えていく。また、新高岡駅を基点とした二次交通の充実や利便性向上に向けた施設整備など、広域交通体系の利用促進に向けた施策を展開する。

(4) 子育て・教育

《まちづくり指標の分析と課題》

【子育て】



- 認定こども園については、目標値を達成しており、引き続き、認定こども園への移行を推進していく。また、病児保育事業実施施設数についても、目標値を達成しており、各施設において病児保育を実施するとともに、利用者ニーズをとらえ、事業を継続していく。



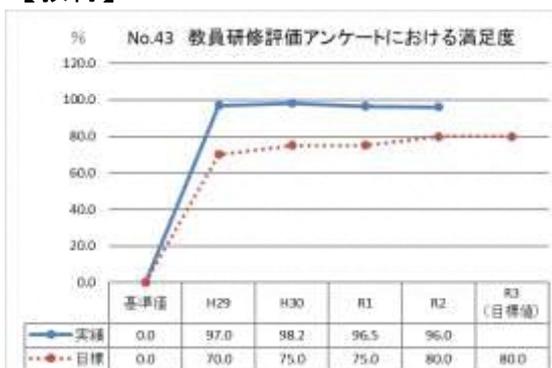
- 新型コロナウイルス感染対策のため、4月・5月は子育て支援センター等を休館したことや、6月の再開以降も利用人数を制限したことから、相談対応件数が減少した。コロナ禍ではあるものの、毎月300件前後の相談があり、今後も対応できる体制づくりに取り組むとともに、保護者の様々な相談に対応できるよう、相談を受ける側の資質向上を図る。



- 経済的不安や共働きなどの家庭環境に加え、新型コロナウイルス感染拡大や今冬の大雪の影響などから、前年度よりも子育てへの不安・負担度は増加した。引き続き、子育て世帯の経済的負担軽減を図るため、幼児教育・保育の無償化や子ども医療費助成などに取り組むとともに、子育て中の保護者が、しごとと生活の調和のとれた働き方ができるよう、教育・保育や放課後児童クラブ等の充実に取り組む。

- 新型コロナウイルス感染防止対策のため、これまで保健師や助産師等が対面で応じていた相談に加え、オンラインという新たな手法での相談体制の拡充を行い、安心して子育てができるよう支援した。

【教育】



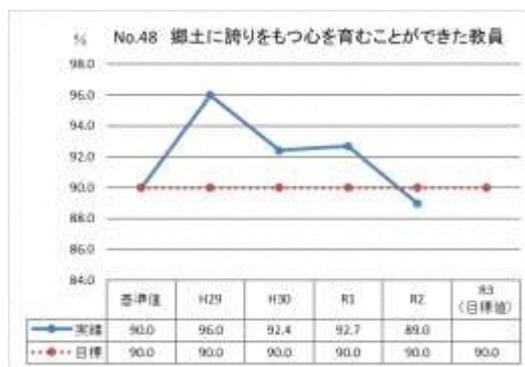
- 当初予定していた教職員研修会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。しかしながら、感染状況をみながら、GIGA スクール構想の実施に伴った ICT 研修会など、教員のニーズに応じた研修会を新規に実施し、年次目標を達成した。今後は、外部講師を招聘した学力向上や道德教育に関する研修をオンラインで実施することや、一人一台学習専用端末の活用について、具体的な実技研修の実施を予定している。



- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大学と連携した多くの事業が中止になったが、オンライン開催に変更するなどの工夫を行い、年次目標の9割を達成した。今後も各大学と連携し、連携事業の継続や新規企画を行い参加者数の確保に努めていく。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国のGIGA スクール構想が加速するなか、本市においても一人一台学習専用端末の配備や高速容量の校内通信ネットワークの整備、遠隔会議システムの導入など、ICT の教育環境の整備を大幅に進めることができた。



- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、6月から学校が再開となったことを受け、学習の遅れを取り戻すため、これまで以上に授業の確保が難しかった。しかしながら、ものづくり・デザイン科の学習を2学期以降に遅らせ、工程内容を見直し、児童・生徒が郷土に誇りと愛着を持って活動できるよう、指導の工夫を重ねることができたことから、年次目標を達成した。また、教員自身も学習の価値を改めて感じることができたものの、年次目標を達成できなかった。



(5) 安全・安心

《まちづくり指標の分析と課題》

【地域・高齢者福祉】



- ・ 会員が高齢化し活動を継続できない団体が出ていることや、定年延長等の雇用年齢の拡大に伴い、ボランティア活動を始める年齢が高くなっていることなどが要因となり、年次目標を達成していない。引き続き、ボランティア養成講座や、身近で活動している団体の体験等を通して、ボランティア活動への機会の提供とその魅力を伝える事業を実施していく。



- ・ 平成 30 年度には、高齢者と接する機会が多いスーパーやコンビニなどの商店企業を対象とした認知症サポーター養成講座を開催し、令和元年度には、美容院、医療機関等を対象に開催した。令和 2 年度は、タクシー事業所を対象に講座の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。しかしながら、これまで取り組んできた小学校等の教育施設などへも継続的な受講を呼びかけて開催するなど、あらゆる分野の機関・団体等へも受講の働きかけを行い、年次目標を達成しており、今後も事業を継続していく。

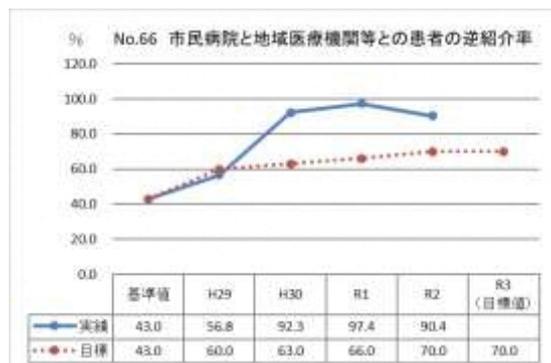


- ・ 住民主体の通いの場は、新規立ち上げが 8 か所あり年々増えてきたが、令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染防止対策が取れない小さな会場等で休止された会場もあり、前年度から若干減少し、参加者数についても前年度と比較し下がる結果となった。新型コロナウイルス感染防止対策を行い、再開する通いの場も見られることから、引き続き、新規立ち上げの際には、専門職の派遣や看護師の健康相談を行うなど、参加している高齢者の個別対応に取り組んでいく。



- ・ また、富山県と県立大学と連携して、高齢者も参加可能な通いの場で e スポーツを実施し、これまで通いの場等に参加していなかった高齢者の参加を図るとともに、大学生との多世代交流を図るなど、社会参加の促進による介護予防に取り組んだ。

【医療】



- 市民病院は高岡医療圏唯一の感染症指定医療機関として積極的に新型コロナウイルス感染症への対応に取り組むとともに、コロナ禍ではあったが、PR冊子の作成・配布や、これまでの実績等を示しながら医師の逆紹介意識の向上を図るなどに取り組み、年次目標を達成できた。引き続き、人口増の地区や市民病院への入院患者が多い地区へ院長をはじめ病院職員が開業医訪問し、市民病院の強みをPRする。また、医局会等で市民病院の医師に対し、逆紹介を促していくとともに、地域医療機関との「顔の見える連携」を推進するなど、関係の強化・継続を図る。

【防火・防災】

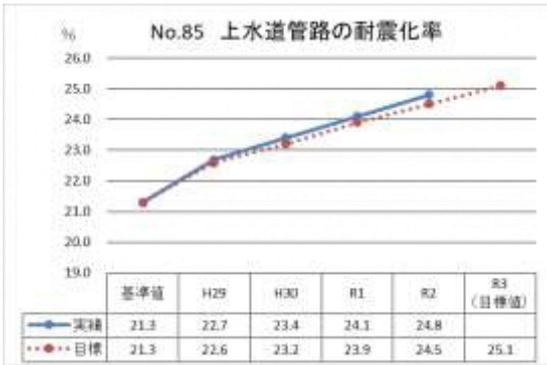


- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度は総合防災訓練が開催できなかったため、年次目標を達成できなかった。なお、感染症禍における災害に備えるため、新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所運営マニュアルを策定し、避難者の受入れと避難所の運営等の手順を定めるとともに、避難所に、非接触型の体温計やパーテーション、消毒液などの感染防止用資機材の配備を進めている。

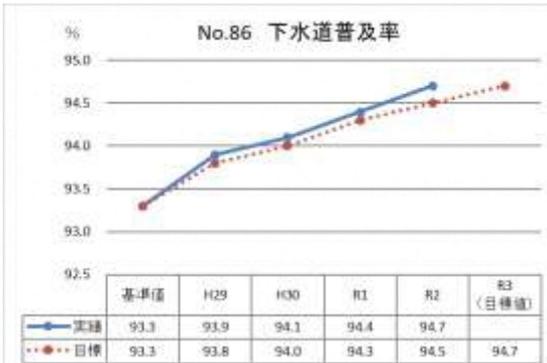


- これまで年次目標を達成していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年通りの講習会の開催が困難であり、人数制限するなど規模を縮小して開催したため、達成できなかった。引き続き感染防止対策を徹底しつつ、講習会を開催する。

【上下水道】



- 上水道管路の耐震化率と下水道普及率については、ともに年次目標を達成しており、今後も上下水道施設の更新・耐震化事業及び下水道未普及地域整備事業に継続して取り組む。



【市民が主役の地域づくり・多文化共生】



- 地域コミュニティセンターの利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により例年に比べ減少し、年次目標を達成していない。今後は、利用者に身近な地元関係者が務めている指定管理者が、担当課とミーティングを行い、三コミュニティセンターのサービスを高い水準にあわせるよう均一化を図ることで、市民に対して親切・丁寧・きめ細やかな運営に努める。



- 外国人のための生活相談コーナーの利用者数は、特別定額給付金など新型コロナウイルス感染症に関する相談件数が増加したことから、年次目標を大幅に上回った。今後も、市役所窓口、市ホームページやフェイスブックでの周知、国際交流センターや外国籍市民が集まる交流事業等で広報を行い、相談窓口の周知に努める。